

母体外因研究班議事録

昭和53年度母体外因研究班総会

3年計画として昨年度から始められた本研究も本年度は次第にその目的とする成果が発表されてきている。本年度も厚生省母子衛生課から福渡靖課長、川口雄次課長補佐、又評価委員の小林隆、沢崎千秋両名誉教授の御出席をいただき、研究成果の発表及び今後の研究方針、計画について討論が行われた。

〔日時〕 昭和54年3月6日(火曜日) 午前9時30分～午後6時

〔会場〕 鉄道会館ルビーホール「羽衣の間」(東京都)

〔出席者(敬称略、順不同)〕

- 主任研究者(班長)：鈴木雅洲
- 厚生省母子衛生課：福渡靖(課長)、川口雄次(課長補佐)
- 評価委員：小林隆(日赤医療センター院長)、沢崎千秋(日大名誉教授)
- 分担研究者(幹事、分科会長)：前田一雄(鳥取大産婦人科)、吉野亀三郎(東大医科研ウイルス部)、松山栄吉(愛育病院)、鈴木雅洲(東北大産婦人科)
- 分担研究者(班員)：一戸喜兵衛(北大産婦人科)、広井正彦(山形大産婦人科)、水野正彦(東大産婦人科)、岡田弘二(京都府立医大産婦人科)、森崇英(京大産婦人科)、倉智敬一(阪大産婦人科)、井出正男(武蔵工大電気通信)、竹内久彌(順天堂大産婦人科)、中尾亨(札幌医大小児科)、常松之典(帝京大寄生虫学)、藤井仁(愛育病院産婦人科)、清水哲也(旭川医大産婦人科)、古谷博(順天堂大産婦人科)、藤森博(国立岡山病院産婦人科)、福島務(福島医大産婦人科)、馬場一雄(日大小児科)
- 代理出席：加藤敬三(福島医大産婦人科)、東山秀聲(京都府立医大産婦人科)、安部徹良(東北大産婦人科)、倉林道男(順天堂大産婦人科)、沼崎義男(国立仙台病院ウイルスセンター)
- 事務担当責任者：平野睦男(東北大産婦人科)
- 分科会事務担当責任者：寺原賢人(鳥取大産婦人科)、鳥羽和憲(東大医科研ウイルス部)、沢田啓司(愛育病院小児科)、高林俊文、阿部洋一(東北大産婦人科)

〔議事〕

昭和54年3月6日午前9時30分～午後6時

- I 班長挨拶(開会) 鈴木雅洲
厚生省母子衛生課挨拶 川口雄次

II 研究報告

各分科会長が座長をつとめ、分担研究者が研究協力者の分もまとめて一括して報告した。又座長が分科会全体の研究成果、今後の研究方針を述べ、その都度評価委員および各分担研究者との間に質疑応答があった。

- (1) 母体外因による異常胎児発生の疫学的・臨床医学的・保健医学的研究。(異常環境分科会)

座長 鈴木雅洲

A 実験的研究の研究結果発表

- ① 経口避妊薬服用後妊娠、又は月経不順婦人妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
○広井正彦、岡田弘二、美甘和哉、西田悦郎
- ② 排卵誘発妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
○水野正彦、豊田 裕、森 崇英
- ③ 高年令婦人の妊娠による心身障害発生の防止対策に関する研究
○一戸喜兵衛、藤原 篤、福島 務、鈴木秋悦

B 疫学的研究の研究結果発表

- ① 年 令 ○一戸喜兵衛
- ② 月経周期異常 ○広井正彦
- ③ 経口避妊薬 ○岡田弘二（東山秀聲代理報告）
- ④ 排卵誘発剤 ○森 崇英
- ⑤ 異常妊娠 ○水野正彦
- ⑥ 偶発合併症 ○福島 務（加藤敬三代理報告）
- ⑦ 嗜好品 ○鈴木雅洲（安部徹良代理報告）
- C 多胎児の妊娠・分娩・成長・発達・相似性に関する研究成果発表
○馬場一雄

D 評価委員による評価

臨床及び疫学と多方面から幅の広い研究がされていて、昨年度と比べその研究成果もかなり得られている。例えば母子衛生に対する1つの警告ともいえるような具体的なデータもみられ、今後も研究のみに終ることなく社会等に還元してほしい。疫学調査においては特にいくつかの因子を組み合わせで検討してみることもいずれ必要になってくるものと思われる。又排卵誘発剤使用によって出生した児の追跡調査は是非必要で、この点からも多胎児の研究が新たに加えられたことは有意義であると述べられた。

E 分科会長挨拶 鈴木雅洲

(2) 超音波パルス波の胎児に対する安全性に関する研究。（超音波分科会）

座長 前田一雄（竹内久彌代理）

- ① 超音波パルス波の染色体に及ぼす影響に関する研究
○前田一雄（寺原賢人代理報告）、坂元正一、清水哲也
- ② 超音波パルス波の胎児・母体生理に及ぼす影響に関する研究
○倉智敬一、中村 徹、穂垣正暢、関場 香
- ③ 超音波装置の開発・改良に関する研究
○井出正男、諸橋 侃、竹内久彌
- ④ 超音波胎児診断による心身障害発生の疫学的研究
○竹内久彌 他
- ⑤ 合同疫学調査に関する討議

A 評価委員による評価

パルス波による胎児診断は日常診療において使用している施設がかなり増えている。現在の市販の装置では障害は特にはないものと思われるが、疫学調査の結果を早急にまとめて一般医に安全性の有無の結論を示してもらいたいとの発言があった。

B 班長挨拶

C 分科会長挨拶 前田一雄（竹内久彌代理）

(3) 妊娠貧血の胎児に及ぼす影響についての臨床的及び疫学的研究。（妊婦貧血分科会）

座長 松山栄吉

- ① 妊婦の貧血と新生児の血液障害に関する研究
○古谷 博（倉林道男代理報告）
- ② 妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究
○清水哲也、永井生司
- ③ 妊婦の貧血と周産期障害に関する研究
○藤森 博、関場 香、高知床志
- ④ 妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究
○藤井 仁、有広忠雅、河上征治
- ⑤ 分科会の全般的討議

A 評価委員による評価

妊婦貧血と妊娠中毒症との関係は従来、色々な報告があるが、改めて考えなおさなくてはならない時期にきている。産褥排卵と貧血の問題など興味深いデーターがでていたとの発言があった。

B 班長挨拶

C 分科会長挨拶 松山栄吉

(4) 母体感染による胎児異常発生予防に関する研究。(母体感染分科会)

座長 吉野亀三郎

- ① ヘルペスウイルスによる感染に関する研究
 - 吉野亀三郎
- ② サイトメガロウイルス感染に関する研究
 - 中尾 亨, 千葉峻三, 沼崎義男
- ③ トキソプラズマ感染に関する研究
 - 常松元典(亀井喜世子代理報告)

A 評価委員による評価

昨年度に比し、成果は驚異的に進歩したものが得られている。検査方法が思ったよりも簡単で、システムが出来、検査方法が統一されるようになれば、世界で初めての統計になる。尚、座長より、検査法の講習会を昭和54年6月16日に東大医科研講堂に於て開催する旨が報告された。

B 分科会長挨拶

Ⅲ 班長挨拶(班総会閉会)